

令和8年度東京都立田園調布特別支援学校年間指導計画

学年・類型・学級・グループ		2・3年、重度・重複学級、普通学級Ⅰ類型		担当者名	○西野 悦子
教科・領域名		作業学習・クラフト班			
ね ら い		(1) 仕事の手順を理解して、責任をもって取り組むことができる。 (2) 共同作業をととして、コミュニケーションの力を育て、円滑に仕事をするすることができる。 (3) 仕事をととして達成感や自己有用感を高め、働く喜びを味わう。			
曜日・校時・時間		火曜日・2～7時間目・9:20～15:05 木曜日・2～5時間目・9:20～12:30			
指導場所		クラフト室			
年間授業時数		318.3 時間			
使用教科書		なし			
月	単元（題材）名	指導 時数	○ねらい □主な学習内容（評価の観点）		指導の工夫
4	クラフト班の仕事を 知り、道具や手順を 覚えよう	30.1	○クラフト室の利用の仕方や道具の扱い方、清掃の方法を習得する。 □クラフト班の作業内容や道具の整理整頓・清掃、仕事にふさわしい身だしなみについて学ぶ。(知識・技能) ○道具の準備から片付けまでを一人で行い、作業に取り組むことができる。 □手元を見て、集中して作業に取り組む。(思考・判断・表現)		・それぞれの作業工程だけでなく、同じ室内でどのように工程が流れ、協力し合っているか、作業の全体像が分かるよう説明する。
5	得意な仕事を見付け、責任をもって取り組もう	30.5	【刺繍】 ○手元をよく見て、安全かつ正確に作業をすることができる。 ○糸の引き加減に留意して美しい製品を作る。 □印を見て、正確に目をすくうことができる。一定時間集中して、作業に取り組む。(知識・技能) □1本通し終えたら、報告する。自ら間違えに気づき、報告する。(思考、判断、表現)		・最初にルールや、姿勢、取り組む態度、報告の仕方告や挨拶について説明し、生徒が受け入れて活動に取り組めるようにする。 ・治具を工夫することで、生徒が自力でできる活動を引き出せるようにする。 ・各作業の正しいやり方を教材や環境設定を工夫することで、分かりやすく示す。 ・個々の実態に応じた作業内容を検討し、得意な仕事で達成感を得られるようにする。 ・報告、相談の場面を設けて、正しい言葉遣いや姿勢を経験的に学習できるようにする。 ・指示された時間で休憩をとることで、活動の緩急を意識すると同時に、長時間の作業に心身ともに安定して取り組む経験を積むことができるようにする。
6		41.5	【織物】 ○作業の手順を理解し、一定時間、落ち着いて作業に取り組む。 □経糸を交互にすくいながら緯糸を通すことができる。(知識・技能) □指示された仕事が終わったら報告できる。(知識・技能) 【くるみボタン】 ○用具の扱い方を知り、安全に作業を行うことができる。 □押し加減に留意して製作機の板を押し、引き上げる。(知識・技能) □線に沿って布を裁断することができる。(知識・技能)		
7		21	【編物】 ○作業手順を理解し、手元を見て正確に作業を行う。素材に触れ、興味をもって活動に取り組む。 □手本を見て、糸のかけ方、編み方を知り、正確に作業を行う。(知識・技能) □間違えに気づき報告する。(思考・判断・表現)		
9		26.7	【糸切り】 ○用具の扱い方を知り、安全に作業を行うことができる。 □押し加減に留意して糸裁断機を押す。(知識・技能) □裁断の準備ができるまで、落ち着いて待つことができる。(主体的に学習に取り組む態度)		
10	友達と協力し、お客様に、喜ばれる製品を作ろう	30.5	【刺繍】【織物】【くるみボタン】【編物】【糸切り】【小物製作】 ○販売や接客に向け、友達と協力し、質の高い製品作りを目指す。 □今までに習得した技術や知識をもとに、得意な工程を責任をもってやりとげる。(主体的に学習に取り組む態度) □質の高い販売製品を作る。(知識・技能) □接客用語を覚え、笑顔で挨拶ができるようになる。(思考・判断・表現) □製品の情報や魅力が伝わる広告（POP）を作る。(知識・技能)		・販売基準となる製品を見て、完成度を確認できるようにする。 ・タイミング良く言えるよう、接客用語を提示し支援する。
11		24.5			
12	新しい作業に挑戦しよう	36			・作業工程の見直し、生徒に合った治具を用意する。 ・作業場所や道具の配置などを決め、安全に配慮する。
1		23.5	【刺繍】【織物】【くるみボタン】【編物】【糸切り】【小物製作】 ○新しい作業工程を覚え、1人で取り組めるようになる。 □様々な作業工程を理解し、手本や手順書を見ながら作業をする。(知識・技能) □ミシンやアイロンなどの準備、片付け、基本的な操作方法を覚え、安全に扱えるようになる。(知識・技能)		
2		22			
3	製品を管理しよう	32	○製品の種類分けをし、分かりやすいように管理する。 □製品の保管場所に示された写真やカードを見て、製品の分別する。(主体的に学習に取り組む態度)		・在庫管理表で製品数の管理ができるようにする。
備考		【全単元共通】 ○作業日誌を記入し、作業の振り返りを行うことができる。 □作業を振り返り、出来高表等を参考にして、できたことや課題について考える。(思考・判断・表現) ※年間を通して、挨拶・報告・身だしなみの指導をする。			